



こどもエコクラブ交流会

～大学生の社会貢献活動～

吉備国際大学政策マネジメント学部

環境リスクマネジメント学科教授 井 勝 久 喜



11月27日(日)に文化交流館を拠点として、“こどもエコクラブ”交流会が開催されました。この交流会は、岡山県内で活動している“こどもエコクラブ”の交流と活動の活性化を目的として、岡山県が主催し、筆者もメンバーの一員であるNPO法人岡山環境カウンセラー協会が実施主体として開かれたものです。今年が高梁市で開催されることもあり、環境リスクマネジメント学科の学生を中心に今年7月に結成された、吉備国際大学学生環境活動グループ「青たんぼ」のメンバーを中心とした学生25人が、子どもたちのサポーターとして参加しました。

当日は、成羽町美術館で過去の自然を学び、高梁自然公園で現在の自然を体験した後、『未来の自然を想像してみよう』というテーマで、グループに分かれて発表会を行いました。子どもたちの自由な発想、大学生の若々しい感性が発表ににじみ出ており、明るい未来社会を感じさせる交流会となりました。

自然豊かで歴史と伝統が残る高梁市は、環境学習に最適な地域なのではないでしょうか。高梁市と吉備国際大学が連携して環境学習の拠点づくりができれば、環境先進都市として地域の活性化につながるのではないかと思います。すでに「青たんぼ」は高梁青年経済協議会と協働で高梁小学校のピオトープ造りを行いました。これからも、学生自らが地域にとけ込み、地域に貢献し、地域での活動から多くのことを学んでいってくれることと思います。

■問い合わせ 高梁学園広報室 フリーダイヤル0120-25-9944 / e-mailアドレス:koho@kiui.ac.jp

編集後記

早いもので今年も残りわずかとなりました。この時期になると「あれもこれもしなければ」と気持ちだけが先走り、心なしか落ち着かないのは私だけでしょうか？俗に『人は心にゆとりがない時ほどいろいろな災いがふりかかる』と言われています。私は、市内各所に装飾されたイルミネーションや、1年で一番綺麗だと言われる冬の星空を見あげ、心にゆとりがもてるように心がけています。

今年一年を振り返ってみると、広報紙の取材、市政見学バス、地域の行事などを通じて多くの人や物と出会(合)い、私自身成長できたのではないかと思っています。広報紙の中にも多くの出会(合)いが詰まっています。皆さんに出会(合)いを感じてもらえるような広報紙づくりを頑張っていきますので、来年も「広報たかはし」をよろしくお願(願)いします。

(T・K)



ル・ソレイユ(コーラス)

代表 山上恵子さん
(成羽町成羽)

のびやかな歌声を響かせているル・ソレイユの皆さん。「ル・ソレイユ」とはフランス語で「ひまわり」の意。会員は17人で第2・第4火曜日、午後7時30分から9時まで成羽文化センターのホールで練習しています。練習は、講師中山法子さん(鉄砲町)の指導のもと、各パートの音を確認し合いながら素人ばかりの

のびやかな歌声を響かせているル・ソレイユの皆さん。「ル・ソレイユ」とはフランス語で「ひまわり」の意。会員は17人で第2・第4火曜日、午後7時30分から9時まで成羽文化センターのホールで練習しています。練習は、講師中山法子さん(鉄砲町)の指導のもと、各パートの音を確認し合いながら素人ばかりの



わたしの健康づくり

グループですが、任せられたパートを自分のペースで練習して、曲を完成させていきます。披露の場は、市内で行われるコーラスフェスティバルや童謡まつりなど。国体の時は、開始式で地元中学生とともに歌声を披露し会場を盛り上げました。

代表の山上さんは、「合併して披露する機会も増え練習にも力が入ります。大きな声を出すから、ストレス発散になって健康的です。楽しくをモットーにがんばっています」と話します。メンバーの小林瑞枝さん(成羽町成羽)は、「舞台上に立つときの緊張感と、客席から拍手をいただいた時のあの感動はやみつきになりますよ」と笑顔。他のメンバーからは「発表会ときの衣装選びも楽しみ」「みんな集まっておしゃべりをするのも楽しみの一つ」と楽しそうに話します。



川建恵理さん(12)
津川町今津

48 m 59。11月4日に行われた第34回高梁市東部地区学童陸上運動記録会(高梁・有漢地域を東部地区、成羽・川上・備中地域を西部地区とし、それぞれ神原スポーツ公園となりわ運動公園で開催)で出たソフトボール投げ女子の部の大会新記録です。6年ぶりに更新され、これまでの記録を3 m 88も上回りました。

大会新を出したのは、津川小学校6年の川建恵理さん。11月13日にあった第27回岡山県学童陸上競技大会(岡山県陸上競技場)では、さらに記録を伸ばして52 m 25を投げ、見事6位入賞を果たしました。

毎年行われる同記録会には市内の各小学校5・6年生が練習を積み、大会に臨みます。

津川小学校では、大会の1カ月前ほど前から放課後約1時間、児童それぞれが出場したい種目

ソフトボール投げで大会新

で、自分の目標を決めて練習をします。

恵理さんは、4人姉妹の末っ子。ソフトボール投げの種目にしたのは、「お姉ちゃんがやっていたから」。遠くまで投げることができた時がこの種目をやっていて楽しい時です」といいます。

競技の後に新記録が出たことを聞いた恵理さんは「2投目は40 m ラインを大きく越えたように思えたけど、大会新と聞いてとても嬉しかった」とこぼり。体を動かすことが大好きで、普段は地元の津川スポーツ少年団バレーボールで週3回練習をし、中学校の部活ではバレーボールをする決めてます。

担任の関孝之教諭(44)は、「恵理さんは何にでも一生懸命に取り組める子です。優しく、誰とも仲良くできるので友達も多いですね。普段の力が大会本番で出せたことは素晴らしいこと」と話していました。



ママさんバレーボールチーム
「高梁落合」

11月5、6日に島根県で行われた第20回記念「中国地区家庭婦人バレーボール大会」、(通称「ママさんバレーボール」大会)で見事、中国5県(約1700チーム)の頂点に立った「高梁落合」チーム。岡山県勢として「初優勝」という快挙を成し遂げ20年間の悲願を達成しました。

キャプテンでエースアタッカーの面平和子さん(34)は、「高梁落合」の名前を県外に広く知ってもらうことを目標にして大会に臨みました。監督をはじめ、

栄冠を獲得

—ママさんバレーボール中国大会で優勝—

選手が一丸となって勝ち取った勝利です」と大会を振り返ります。また、チームの代表を務める高田知加子さん(47)は「みんなバレーが大好きですね。バレーを通じメンバーに出会えて本当によかった」とイキイキと話します。

通常、全国レベルの大会に出場するほどのチームは、実業団や国体出場などを経験した選手構成の強豪チームばかり。しかし、このチームのメンバーは15人中、バレーボール経験者がわずか5人だそうです。

監督の山口繁さん(成羽町星原)は、チームを率いて20年。近年、県内では常にトップクラスの成績を残しています。「チームワークがとても良く、目標に向かって常に練習熱心。拾ったボールの取れたチームです。基本練習のたまものです。選手たちは、この栄冠を手にしたことで勝つ喜びをあらためて知ったはず。監督みょうりに尽きますね」と喜びを話します。

練習は、毎週火曜日と土曜日の午後8時から2時間半。練習会場の落合小学校体育館には、明るく元気なママさんの掛け声が響き渡ります。